

事例2

日光市足尾公民館・日光市立足尾小学校・足尾幼稚園

グラウンドゴルフをととした異世代間の交流活動

連携の経緯



足尾公民館では、平成4年に高齢者を対象とした高齢者学級（シルバーセミナー）を開設した。

その頃、町内ではグラウンドゴルフが高齢者に普及し、町内に定着しつつあった。公民館では、こうした現状を踏まえ、シルバーセミナーの事業内容として、グラウンドゴルフを取り上げることとした。このセミナーは、単に高齢者の仲間づくりを目的としたものではなく、異世代との交流や地域の子どもたちとの交流を通じて、高齢者の教育力を引き出し、いきがいを見つけていこうとするもので

あった。そこで、地元の小学生・幼稚園児との交流を柱として事業が企画された。

連携事業の概要

この事業は、公民館が企画し、小学校と幼稚園に事業協力を依頼するかたちで実施されている。小学校との連携事業は、シルバーセミナーの事業の中で、年1回、4年生を対象に小学校を会場としてグラウンドゴルフを実施している。午前中に児童と高齢者がグラウンドゴルフを実施した後、給食を一緒に食べながら楽しいひと時を過ごす内容である。その合間には、足尾の昔について高齢者が話をし、児童の質問に答えることもある。

また、幼稚園との連携事業は、年1回、昔遊びや工作、簡単なゲーム、流しそうめん、幼稚園児の発表の見学などが行われている。

連携の形態

本事業は、足尾公民館の主催事業であり、学校・幼稚園は、児童・園児の参加というかたちで協力している。事業の実施にあたっては、公民館主事が企画提案し、小学校は教頭、幼稚園は園長を窓口として、公民館との連絡調整を図っている。

学校・幼稚園は、①会場の提供、②交流のための時間の設定（授業や特別活動等）、③事前学習・実施のための準備を担当し、公民館は、①各事業の実施計画の企画立案、②参加者（高齢者）の募集・確認・調整、③用具の準備、④当日の進行・総括を担当し、学校と公民館が役割を分担している。

日光市足尾公民館

【施設データ】

所在地	日光市足尾町赤沢6-1
電話	0288-93-3322
設置年	昭和44年
対象地域人口	2,986人(平成20年3月1日現在)
延床面積	737㎡
設置状況	単独
URL	

【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長 (足尾教育行政事務所長が兼任) ・主事(専任2) ・図書室職員(専任1) ・臨時職員(専任1)		
	協議会等		
予算額	維持管理費:	4,934,000円	事業費: 402,000円

連携の留意点

- 事業の企画実施にあたり、双方の役割分担を事前に打ち合わせる。役割分担は、相互の専門分野に配慮しながら行う。
- 学校や幼稚園にとって、事業は教育課程に位置づけられた教育活動となるので、ねらいや留意事項などを関係者と文書や口頭で十分確認する。
- 連携にあたっては、時間割や日課に配慮し、他の授業に影響のないようにする。
- 学校との連携にあたって、事業は、年間計画や学校行事に位置づけることが前提となる。したがって、少なくとも前年度末までには学校に事業の提案をするなど準備を進め、事業の目的・内容などを確認したうえで、年間計画・教育課程に位置づける。
- 連携には、高齢者、教員、児童、園児などの相互の特性を理解することが大切で、お互いに相手を尊重する姿勢で、人権に配慮する。



成果

- 本事業は、高齢者のもつ豊富な知識や経験がうまく生かされ、次代を担う子どもたちに受け継ぐ良い機会となっている。
- 高齢者と子どもたちとの交流が、高齢者にとって子どもたちから必要とされる場となった。そして、そのことが高齢者自身のいきがいとなり、高齢者がより健康で生き生きとした生活を送るきっかけとなっている。
- 事業の開始当初は、ちょっとした注意などにも遠慮がちであった高齢者たちが、回を重ねるに従い、基本的な約束事などについて遠慮なく「しかれる」ようになり、子どもたちが良い意味で緊張感をもつようになった。このことは、地域の教育力の向上にもつながっている。
- 高齢者と子どもたちが給食を共にすることにより、子どもたちが「むかしは・・・食べたなくても食べられなかった。」などという話を聞き、給食を残さずに食べるようになってきた。これは、今の時代に欠落しがちな『ものを大切に作る心』の育成に結びついている。

課題

- 事業に参加する高齢者と子どもたちの人数のバランスを考えると、今後は、対象学年(現在4年生対象)を広げていく必要がある。
- 活動がマンネリ化しないよう、高齢者や子どもたちのアイデアを取り入れながら、活動内容(ルールやゲームの工夫、種目等)を工夫する。

